

果樹園からの農薬の飛散を防止します

散布農薬の周辺への飛散(ドリフト)は、これまでも注意を呼びかけてきましたが、食品衛生法の改正で、ほんの少しの飛散でも周辺の作物に大きな影響を与える恐れが出てきました。特に果樹園では大型の散布機を使うため薬液が広範囲に広がりやすく、より影響が大きいと考えられます。

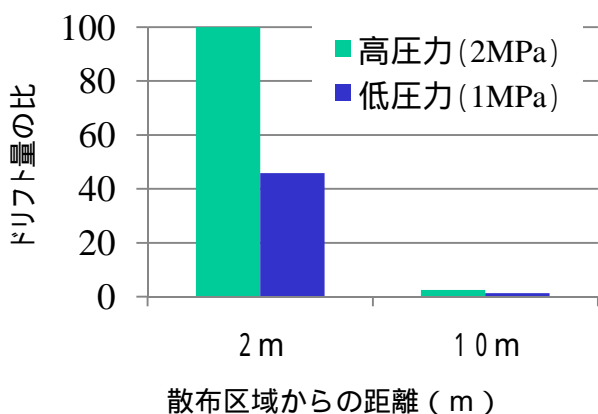
そこで、果樹園からの農薬飛散を解析し、周辺へ飛散しにくい散布方法を確立しました(平成17~19年度農薬環境負荷軽減対策事業)



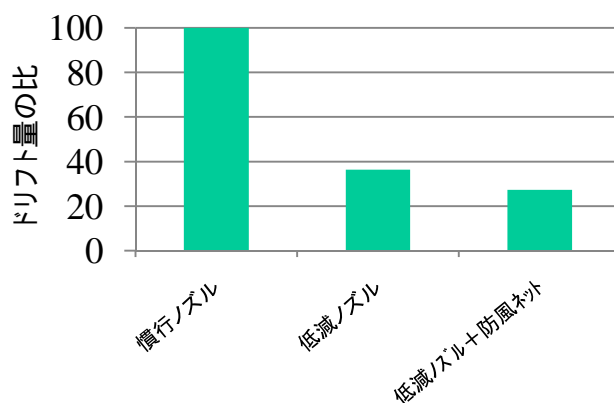
防風ネットとリンゴ園での散布の様子



風量調節板(左下)と飛散低減ノズル(右上)



散布圧力調整による飛散量の低減



低減ノズルや防風ネットの効果 (2m地点)

(研究成果)

- ・ 農薬飛散を抑えるには基本的事項の励行(風の無い時に、適正な散布圧力で、不必要な方向のノズルは止める)が最も大切です。
- ・ 飛散低減ノズルの利用は農薬飛散を慣行ノズルの半分に抑えました。
- ・ ネットなどの障壁物は大変有効で、防薬ネット(1mm目)は農薬飛散の約9割を、また防風ネット(4mm目)でも農薬飛散を半分に抑えることができました。